



なみだのわけ



lily

わたしの、はじめて読んだ西加奈子さんの作品は、今から書く「きりこについて」です。
はじめて読み終えたときのあの、どうしようもないくらいの衝撃、
ここに焼き付いて、今思い出しても、気分が高揚します。
それ以来、西さんの虜なのです。

うつくしいってさ、なんなんだろうね、
ただしいってさ、なんなのかなあ、
人がみんな平等だなんて、だれが決めたんだろう。
この世界は、いつの時もそんな謎で溢れかえっているけれど、
わたしはあたまが悪いから、
どんどん増えていく謎を考えても考えても分かりませんでした。
これって自分の考えがない＝個性がないってことなのかなあって、
すごく悩んだりして、
もやもやししながら、手にとったこの本。
それが、奇跡でした。その答えがすべて、詰まっていたのです。

きりこは、わたしと違うタイプの女の子です。
思いこみが強くて、自我もあって、自信もある。
わたしは、どちらかというと、
自我がなく、自信もなく、どちらかといえば活発ではない子供でした。

それなのに、こんなにもこの本に共鳴したのは、
きりこと、行き着いた答えが同じだったからです。

先ほども書いたけれど、
わたしはわたしが分からなかった。
物心ついたときから、なにがしたい、とか、なにがほしい、とか、
なにがやりたい、誰と遊びたい、その他諸々の、「わたし」発信の感情が、
ほとんど発達していなかったのです。
だから、まわりに委ねて、流されて、生きていました。
実はわたしは、その方が良いと思っていました。
その方が、正しいと、もっと言えば崇高な行為だと思ったのです。

でも、それではいけないと、ころのどこかで思っていたのですね、きっと。
ころのどこかが悲鳴をあげていたんです。
わたしは、ここにいるんだって。

ほどなく、わたしは体調を崩しました。
ついにどうしようもなくなり、
なみだを流しながら、「わたしは、ひとりだ」
そう思う日々が続きました。

何年かたち、
まだまだもやもやしたあたまではありましたが、
本を読もう、と思い始めたのです。
だいすきな芸人さんが、西加奈子さんが好きだって、
言っていたので、その棚からそっと手にとったのが、
「きりこについて」でした。

”「今まで、うちが経験してきたうちの人生すべてで、うち、なんやな！」
ぶすの、きりこ。
きりこの、すべてが、きりこ、なのだ！”

このフレーズに、わたしは言葉では表せないくらいの、
激しく狂おしい、それでいてあたたかい、
今までのわたしの人生が、もうごちゃまぜになってどどどっと押し寄せてきて
同時に、これからの人生がすぱっとひらけて、いく感覚に陥りました。
わあーと、大きな声をあげて泣きました。
今までなにやってたんだ、わたし。

その通りだ。

わたしは、わたしのことが分からないと、嘆いてばかりいたけれど、
そんなの、関係なかった。
わたしは、まずそんなわたしを受け入れなければ、ならなかったんだ。
何もかも、そこから始まるんだって、
気付いた瞬間、なみだが、とめどなく溢れて溢れて止まりませんでした。

わたしは、少し不安になると、すぐにこの本を開きます。
なにがあっても、どんな時も、
わたしはわたしを受け入れていこうと思います。
そして愛していこうと思います。
強く生きていこうと思います。